

成績評価報告・講評					
科目名(キャンパス・曜・時限)		労使関係論 (青山・相模原・木曜3限)			
担当者		常使関倫浩 手塚和彰			
受講者総数		83名			
成績評価の対象としなかった者 (X評価の者)の人数		15名 (%)			
X評価の者を除く成績評価比率					
AA	2.4 %	A	27.6 %	B	21.6 %
C	27.6 %	XX	19.2 %		
学部所定の成績評価比率と異なる場合にはその理由					
学生には講義をまじめに聴いていけばB以上の成績がとりやすいと出た。ところがB評価よりAに近いきが増えこれを再検討した結果Aが増えている。					
試験問題／レポートの課題					
即答					
出題の意図					
4277科(1-1), 22科の2つは労使関係上の最必要知識あり。2つの他の評価を述べることは講義では当然必要なことである。労使関係の22科の1つ(1-3)は、法的な視点で問題が組合内にあるという。これは112科に講義で述べた。2番は労使関係論の最必要知識、講義では詳しく、かつ24科の1つであることが学外では悪かった。					
講評					
全体的に講義に出席している学生と試験の結果からすると学生との成績差は一月際然と、悪い成績の試験で1番で、単位をもらうには「良い」という学生が多いことには驚かすほど、結果は2つを完結している。					